

陳情第125号	受理年月日	令和4年12月7日
付託委員会	保健福祉委員会	
件名	新型コロナワクチンの副反応について	
要旨	<p>市では5回目接種が既に始まっている。接種後の副反応については、様々な声を聞く。また、全国での死亡数は少なくない(2022年11月11日時点厚生労働省発表1,908人)。昨年、副反応の重篤な事例として、アナフィラキシー、心筋炎、心膜炎を厚生労働省は認めていた。しかし、今年5月に入ってからではADEM、血圧上昇、顔面神経麻痺、急性肝障害、四肢脱力、多形性紅斑、歩行困難、ギランバレー症候群、顔面帯状疱疹、けいれん重責発作、てんかん、間質性肺炎急性増悪など、心・血管疾患以外にも次々と認定され続け、枚挙にいとまがない。(厚生労働省新型コロナウイルス感染症予防接種健康被害審査部会参照)。このような事例は市で把握されているのか。</p> <p>コロナワクチン(mRNAワクチン)の開発者カタリン・カリコ氏によると、ワクチンの主成分の一つ、修飾ウリジンは、炎症反応を抑えるとのことであるが、mRNAワクチン開発の資料にも、自然免疫の活性化を回避すると記載されていた。つまり、新型コロナの重症化の原因である免疫の暴走(サイトカインストーム)を起こさないよう免疫抑制し、重症化を防ぐ効果があるということがわかっている。では、がん患者に免疫抑制効果のワクチンを接種するとどうなるか。がん治療の逆効果になる。</p> <p>しかし9月、イオンモールの集団接種会場で、抗がん剤治療中の患者にリスクを説明せず、医師が接種している。昨年には、別の接種会場で、帯状疱疹と問診で伝えた人に対して、見なかったことにしましょうと言って接種した医師もいる。どちらも、接種後、症状がひどく悪化した。自治体や医師は、数をこなすことに精いっぱい、説明をおろそかにしていないか。人の命や健康を奪うかもしれない状況なのに、無責任極まりないことである。</p>	

(続 く)

また、きちんと最新のデータを収集しているのか。福岡県には副反応窓口があるが、副反応の実態を県から聞いて、接種の現場に情報を共有しているのか。原因不明の体調不良で、どうしていいかわからず、泣き寝入りしている人も多くいる。接種を推奨するのであれば、リスクをきちんと把握して説明すべきである。

については、新型コロナウイルスの副反応について、厚生労働省の最新の資料をもとに自治体のホームページに記載してほしい。また、接種医が十分な知識を持って、適切な説明をするよう徹底してほしい。